

令和8年度 第1回岩手県 I L C 推進本部会議

日時：令和8年4月24日(金) 13:20～13:45

会場：第一応接室

1 開会

2 本部長挨拶

3 報告

(1) I L C 計画を取り巻く現状…………… 1 ページ

(2) 令和7年度における取組実績…………… 3 ページ

4 議事

令和8年度における I L C 推進の具体的な取組内容（案）…………… 13 ページ

5 その他

6 閉会

1 ILC計画を取り巻く現状

➤ 欧州ではFCC-eeが第1順位

- 2025（令和7）年3月 FCC-ee実現可能性調査の報告、次期欧州素粒子物理戦略への意見提出
〔建設コスト（FCC-ee実現可能性調査より）〕
FCC-ee：約2.5兆円（150億スイスフラン、1スイスフラン=168円換算）
ILC：約1.4兆円（2017年の8,000億円の試算から1.7倍）…IDT（国際推進チーム）試算
- 2025（令和7）年12月 次期欧州素粒子物理戦略の草案でFCC-eeが推奨され（第1順位）優先代替案として実験規模を縮小したFCC-eeが提案（第2順位）
- 2026（令和8）年5月 同戦略の更新見込み
- 2028（令和10）年までに、CERN理事会においてFCC-ee計画を検討し、実施の判断をする（見込）。
⇒EUでは、FCC-ee支援の動きもあるが、国単位では、明確に巨額の建設費に難色を示す国もある。

➤ 米国はFCC-eeにシフト

- P5 報告書以後の動きとして、米国エネルギー省（DOE）が、省内のヒッグスファクトリーに関する組織を「ヒッグスファクトリーサーキュラーライダー組織（HFCC）に改編するなど米国の体制が FCC にシフトしている。

線形加速器

ILC 

- 日本(北上山地)が建設候補地
- 全長約20.5km
- 2030年頃の建設開始を目指す
- 建設費用は約1.4兆円



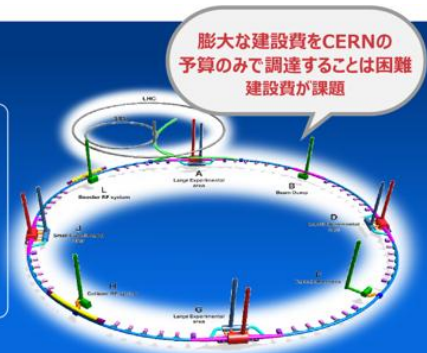
〔出典〕岩手県リーフレット等

2022年2月、文部科学省有識者会議が、「ILC準備研究所への移行は時期尚早」とする「議論のまとめ」を公表。
現在、IDTとKEK、ILCジャパンが連携しながら、「国際協力による技術開発」、「政府間協議の環境の醸成」に向けた取組を実施。

円形加速器

FCC-ee 

- スイス(ジュネーブ)が建設候補地
- 全長約90km
- 2033年の建設開始を目指す
- 建設費は約2.5兆円（約150億スイスフラン）
- 将来、陽子-陽子の衝突実験計画（FCC-hh）への移行を目指す

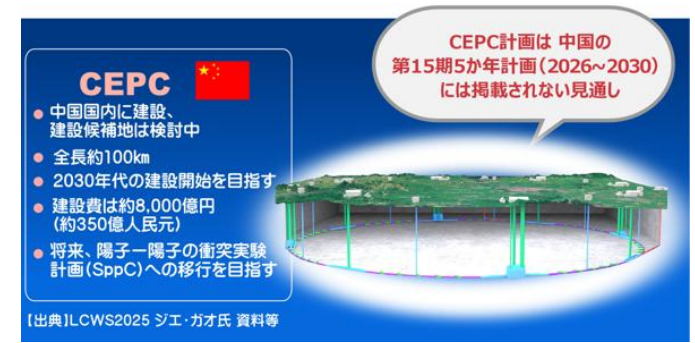


膨大な建設費をCERNの予算のみで調達することは困難
建設費が課題

〔出典〕ESPP オープンシンポジウム
マイケル・ヘネライク氏 資料

➤ 中国のCEPCは5か年計画への位置づけならず

- 加速器及び検出器の技術設計書（TDR）が完成
- 第15期5か年計画（2026～2030）には位置づけられなかったが、FCC-eeが実施されない場合は、第16期5か年計画に提案する可能性



➤ 超党派国会議員連盟が再始動

- 令和8年度当初予算でのILC関連予算は、10.5億円（令和7年度と同額）。ITN（ILCテクノロジーネットワーク）は、5か年計画の4年目
- 超党派国会議員連盟の新役員人事（会長：大野敬太郎衆議院議員、副会長：階猛衆議院議員）が決定（R7.11.26）
- 政府では、日本成長戦略において17の戦略分野、国家戦略技術（6分野）を指定 地域未来戦略を6月までに策定

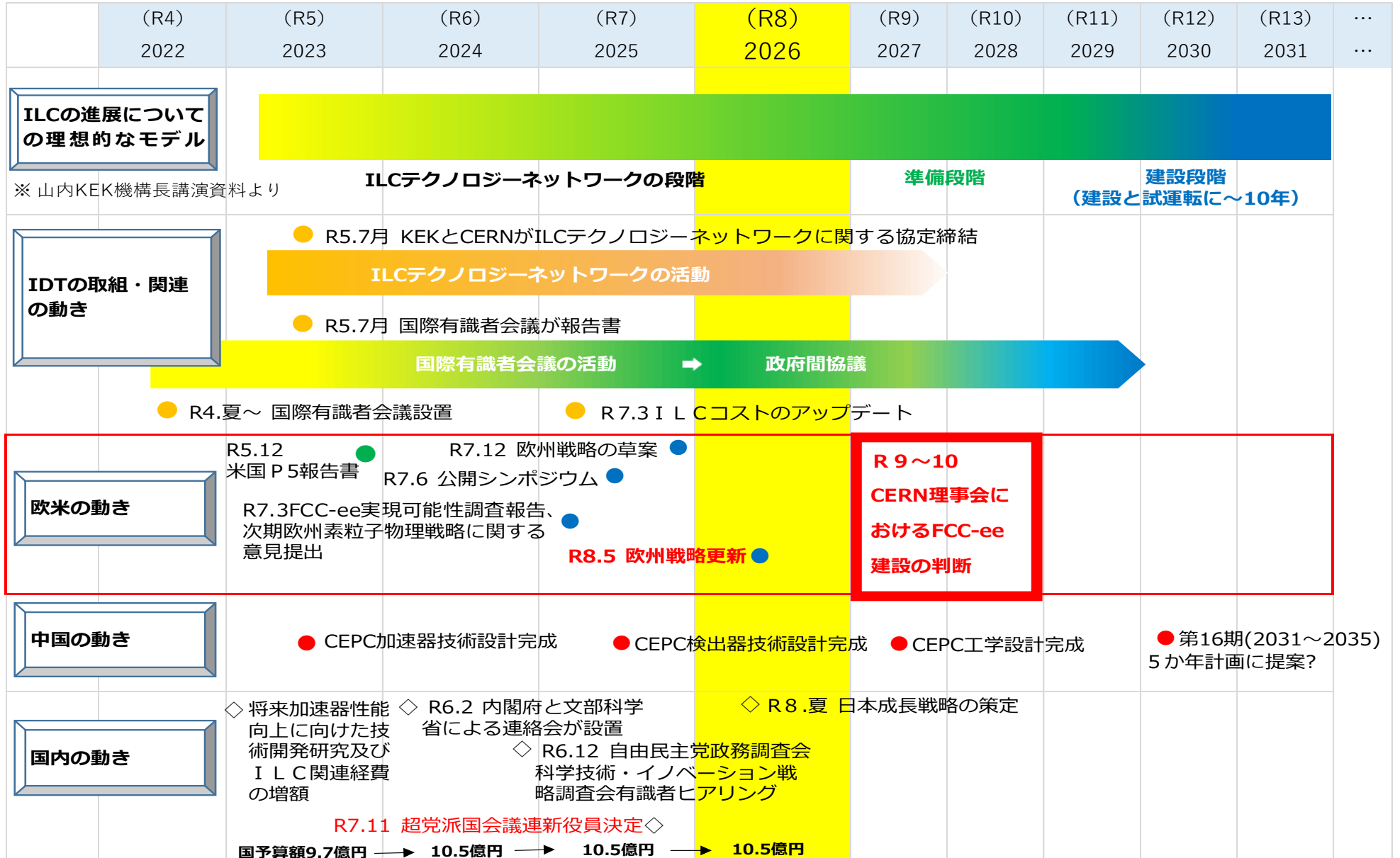
欧州のFCC計画が進展している中、ILCに対する世界的な議論をリードするため、国内の議論を加速させること、1日も早い日本政府の前向きな判断を後押しするための国民的な機運醸成を図ることが必要である。

ilc International Linear Collider ILC
国際リニアコライダーを東北へ



ILC全体のタイムラインと国際情勢

(ILCの進展についての理想的なモデル) (成功志向で大きな事故がないことを前提にしている)



国内外の研究者による公表資料及びLCWS関係資料等から作成

2 令和7年度における取組実績

1 ILC実現に向けた取組

(1) 国等への要望

ア 東北関係者による合同要望

岩手県知事 達増拓也、宮城県副知事 伊藤哲也ほか13名

5月13日 復興庁（伊藤忠彦 復興大臣）、文部科学省（野中厚 文部科学副大臣）、内閣府【科学技術政策】
自由民主党（総務会長 鈴木俊一、政務調査会長 小野寺五典）

イ 政府予算要望

6月4日 復興庁（伊藤忠彦 復興大臣）、財務省（横山信一 副大臣）、文部科学省（赤松健 大臣政務官）、
内閣府【科学技術政策】【地方創生】、外務省、経済産業省、国土交通省

■要望事項

国際リニアコライダー（ILC）の実現

- 1 国家プロジェクトとして位置づけ、政府全体で推進すること
- 2 政府が主導して国際的な議論を推進すること
- 3 国際協働による加速器の研究開発等の着実な推進に必要な予算措置を講じること

ウ 全国知事会 国の施策並びに予算に関する提案・要望

8月「地域における科学技術の振興について」

エ 北海道東北地方知事会 定期提言

7月、11月「国際リニアコライダーの実現について」



5月 自由民主党 鈴木俊一総務会長への合同要望

(2) 研究者の取組への支援

東北ILC事業推進センターにおいて、研究者や関係企業が行う取組を支援。

【令和7年度東北ILC事業推進センターの取組実績】

- 国際学会（LCWS2025）でのPR
10月にスペインで行われたLCWS2025において、本県の加速器関連産業の振興、グリーンILC、持続可能なまちづくりに関する口頭発表・ポスター展示を実施
- 地形・地質調査、施設設備
施設配置計画の具体化案、工期、工費の調査結果等について再整理した成果を基に、東北ILC施設計画の改訂版を作成
- まちづくり、受入環境整備
岩手大学等との共同研究「ILC誘致を契機にしたまちづくり（ILCまちづくり）がもたらす社会的な貢献に関する研究」を実施
- 地域住民の理解促進活動
ILCの意義、ILC計画の最新の状況等について県民や子供に分かりやすく伝える講演会やイベントを開催
- 加速器関連産業の振興
地域企業の技術力向上やSPring8-IIへの参入等を目指した企業支援、AFAD2025（アジア加速器・測定器フォーラム）等にブースを出展し、地域企業情報やILC推進の取組状況等をPR



10月 LCWS2025においてセンターの取組を紹介（スペイン）



7月 夏休み「ILCと科学」（北上市）



12月 ILC 公開講演会（盛岡市）

(3) 海外研究機関等との連携

ア 内容

米国の大学及び研究施設を訪問し、ILCに関する国際協働への協力を要請するとともに、研究者等との意見交換及び最新の国際情勢の情報収集を実施

イ 訪問日程・訪問先

9月7日 カルフォルニア大学バークレー校 村山斉教授
9月8日 SLAC国立加速器研究所

ウ 参加者

達増知事、谷村岩手県ILC推進協議会会長 他5名 計7名

エ 訪問先からの意見

- ・ 欧州では、FCCを進めていく方向が強まっているが、現行のLHCが終了し、FCCが稼働するまでに生じる空白期間にILCを稼働させることができれば、世界の研究者が参加するだろう。
- ・ ILC実現に向けては、早期に日本がホスト国として推進する意志を示せるかどうかである。



SLACでの意見交換

(4) 国民・県民理解の増進

ア 国民的な機運の醸成

大阪・関西万博を活用し、関西圏での電車広告や情報誌への掲載、SNS等による広報を展開

(ア) 特設ウェブサイトの公開

ILCの概要や生活に身近な応用技術を紹介したほか、

「応援する！」ボタンを設けて閲覧者の反応数を把握

- 期間 6月6日～10月31日
- アクセス数 13,135回
- 応援ボタンクリック数 3,128回

(イ) SNS (Facebook、Instagram) での広告掲載

- 期間 6月9日～7月9日
- 表示回数 約80万回
- 広告クリック数 約9,000回

(ウ) JR西日本及びOsaka Metro 電車内でのデジタルサイネージの放映

- 期間 6月9日～15日、9月22日～28日の計2回
- 再生回数 約490万回（3路線）



特設ウェブサイト



Osaka Metro 中央線での放映

(エ) 駅構内での大型ポスターの掲示

- 期間 6月9日～15日、9月22日～28日の計2回
- 掲出駅 新大阪、梅田、本町、弁天町、なんば、天王寺（2種16枚）



新大阪駅でのポスター掲示

(オ) 大阪・関西万博「東北絆まつり」への出展

東北六県合同出展の中で、最先端技術分野としてPR展示を実施

- 期間 6月13日～15日

(カ) 首都圏主要駅でのイベントへの出展

- 期間 9月4日～5日
- 出展先 JR大宮駅「岩手産直市」

(キ) JR東海新幹線車内誌「Wedge」への広告記事掲載

東海道新幹線及び山陽新幹線グリーン車全席に配架されるビジネス誌に広告記事を掲載

- 期間 9月20日～10月19日
- 発行部数 約250万冊



万博会場でのPR

イ 普及啓発の推進

(ア) 岩手ILC連携室・オープンラボの公開

県内事業者、商工会議所等による視察 11団体 51名
 一般公開（工業技術センター公開DAY2025と同時開催） 1,295名

(イ) 県内関係機関等への情報発信

岩手県国際リニアコライダー推進協議会、県内33市町村、岩手県市長会、岩手県町村会に「Iwate ILC News Letter」として岩手県のILCに関する情報を毎月1回提供

(ウ) 県内関連団体が実施する講演会への共催

- ・ ILC 公開講演会（7月） 参加者数約400名
- ・ ILC 公開講演会（12月） 参加者数約500名
 （岩手県国際リニアコライダー推進協議会と共催）



10月 オープンラボ一般公開（VR体験）



12月 ILC 公開講演会（盛岡市）

ウ イベントへの出展等によるPR

(ア) イベント等への出展（県内9イベント、県外4イベント）

- 6月 大阪・関西万博（大阪府）
- 7月 夏休み科学とILC（北上市）、グルージャ盛岡公式戦（盛岡市）
- 8月 盛岡さんさ踊り（盛岡市）
- 9月 岩手産直市（埼玉県）、農研センター一般公開（北上市）
釜石シーウェイブスRFC公式戦（釜石市）
- 10月 岩手ビッグブルズ公式戦（盛岡市）、工業技術センター一般公開（盛岡市）
いわて銀河フェスタ（奥州市）【県南広域振興局対応】
- 11月 いわてまるごと科学・情報館（盛岡市）
- 12月 真空展2025（東京都）
- 1月 2026国際宇宙産業展（東京都）

(イ) 盛岡駅前歓迎塔への看板掲出【盛岡広域振興局】

盛岡の玄関口である盛岡駅前に看板を掲出し、来県者及び市民へのPRを実施

エ 国内外に向けた情報発信

SNSによる岩手の食や観光等の情報発信

【海外向け】 THE KITAKAMI TIMES、X「Iwate & the ILC」

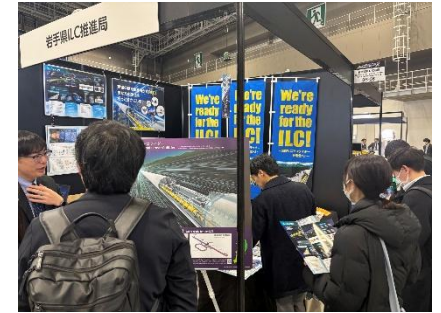
【国内向け】・X「岩手&ILC」、Facebook「岩手&ILC」

- ・県政テレビ番組「いわて！わんこ広報室」における情報発信（8月）
ILCの実現に向けてみんなで盛り上げよう！
～ILCの理解促進と機運醸成の取り組み～

【市町村向け】 Iwate ILC News Letterの発行による情報提供

オ 小中学生を対象とした理解促進の取組【県南広域振興局と連携】

県内の小中学校において出前授業を実施（1校）



1月 2026国際宇宙産業展（東京都）



盛岡駅前看板掲出



THE KITAKAMI TIMES

海外研究者に向けた岩手ワインの記事を連載



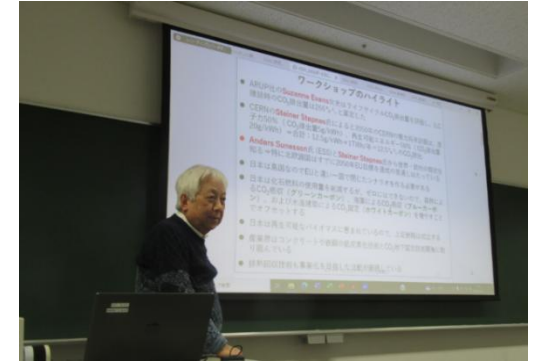
6月 宮野目中学校での出前授業
（花巻市）

2 ILCプロジェクトの推進

(1) 国際研究拠点の形成支援等（まちづくり・インフラ整備分科会）

ア ILCを契機とした居住や交通、エネルギー等に関する地域の将来まちづくり

- (ア) 岩手大学及び東北ILC事業推進センターによる共同研究「ILC誘致を契機にしたまちづくり（ILCまちづくり）がもたらす社会的な貢献に関する研究」（研究テーマ：低炭素まちづくりと社会的価値の向上、ILCが地域にもたらす好循環）に協力
- (イ) ILC実現による新しい地域社会の形成に向け、共同研究の成果を共有する成果報告会を実施。低炭素まちづくりについて、地域資源を活用（地域産木材の導入など）することで、CO2排出量の低減や炭素固定などの地球環境への貢献、地域経済への波及効果や森林資源の循環利用などの価値をもたらす可能性が示された。



3月 成果報告会

(2) イノベーションの創出（産業振興分科会）

ア 県内企業の加速器関連産業への参入促進に向けた、関連企業の技術力向上と人材育成

いわて加速器関連産業研究会を通じたILC技術セミナーを開催し、加速器の最新技術や産業利用等、幅広く情報を提供（5回）

- 第1回 J-PARC加速器のビームパワー増強、核破砕中性子源に係る検討（55名）
- 第2回 加速器関連企業による取組紹介（54名）
- 第3回 ILCの目指すもの、欧州素粒子物理戦略等の世界情勢 など（64名）
（協力・岩手大学）
- 第4回 クアオルト、企業の健康づくりに係る取組紹介（57名）
（協力・岩手県立大学）
- 第5回 サイクロトロンへの医学研究への応用、放射線がん治療装置の動向（55名）
（協力・岩手医科大学）



11月 第4回 ILC 技術セミナー

イ ILCに関連する技術・研究成果の産業化の支援

(ア) 専門知識を有する加速器コーディネーターを配置し、県内企業と研究機関・大手企業等とのマッチング（KEKなどから10件の受注）や、次世代放射光施設関連装置やILCの試作品等の受注に向けた研究開発を支援

その結果、いわて加速器関連産業研究会の会員企業の受注実績が、令和7年度に単年度で10億円を超えるなど、これまでの取組成果があらわれている。

(イ) 岩手ILC連携室・オープンラボに整備した試作品性能評価機器等を活用し、研究者による四極電磁石を用いた地場測定の実習を行うなど、企業の技術力向上を目的とした講習会（チャレンジ部）を開催（5回）

第1回 加速器と水冷冷却（6社9名）

第2回 低品位排熱回収－1（15社23名）

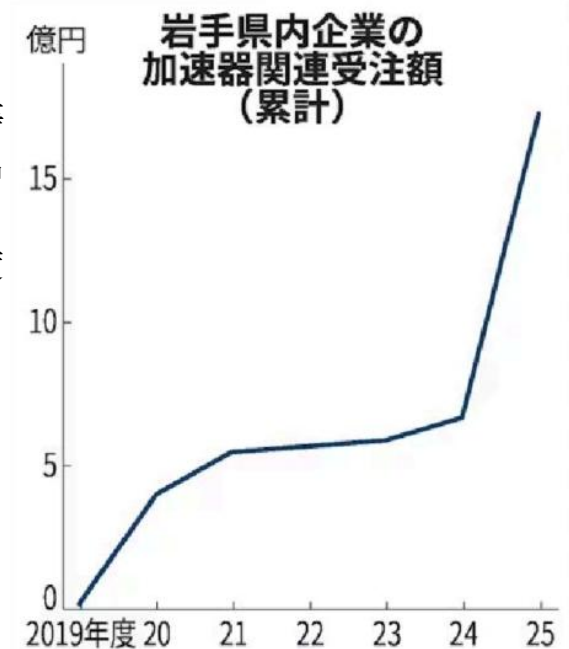
第3回 低品位排熱回収について－2（5社10名）

第4回 電磁石の磁場プロファイルの見える化－1（1社3名）

第5回 電磁石の磁場プロファイルの見える化－2（7社10名）

(ウ) 学会や展示会等の機会を活用し、いわて加速器関連産業研究会の取組成果をPR

- ・ 第22回日本加速器学会年会へのブース出展（8月）
- ・ LCWS2025において研究会の取組をPR（10月）
- ・ VACUUM真空展2025でのブース出展（12月）



チャレンジ部
(電磁石の位置決め)

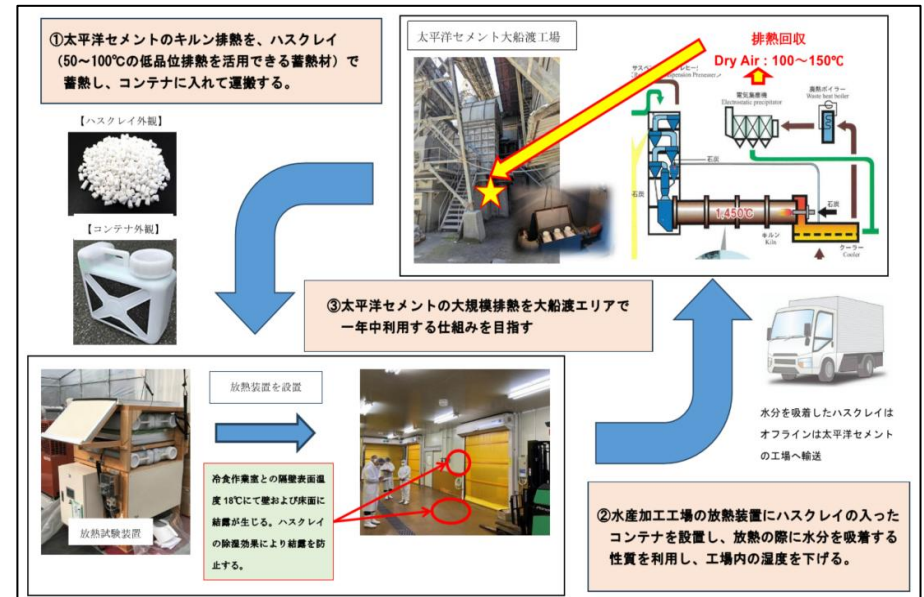
(3) ILCによるエコ社会の実現（グリーンILC分科会）

ア 熱輸送システムの実用化に向けた共同研究を推進

岩手大学と企業との共同による蓄熱吸着材（ハスクレイ）熱輸送システムの実用化に向けた研究について、研究協力者として取組を支援

イ 太平洋セメント(株)が排出する工場排熱の活用に向けた検討

東北ILC事業推進センターと連携し、太平洋セメントの工場排熱をハスクレイにより輸送し、大船渡地域の企業で活用(ビニールハウスの暖房、水産加工場の除湿等)する地域内循環システムの実証実験に向けた検討を実施



太平洋セメントの工場排熱の循環利用（イメージ）

ウ グリーンILCの普及啓発

グリーンILCの実現に向け、グリーンILCの理念等について広く周知を図り、研究者や自治体との連携を深めるためのセミナーを開催（2回）

第1回 「木造建築の推進による脱炭素化の取組について」（参加者66名）

第2回 「県内の再生可能エネルギー導入促進に向けた取組について」（参加者69名）

（環境生活企画室から、岩手県の脱炭素に向けた取組について説明）

第16回
グリーンILC
セミナー

県内の再生可能エネルギー
導入促進に向けた取組について

開催日時 2026.2.4 (水) 13:30～16:30

会場 久慈市文化会館(アンバーホール)会議室 (久慈市川崎町17-1)

入場無料

講演

- ① ILC実現に向けた脱炭素化の取組について
岩手大学 環境生活企画室 専任教授 吉岡 正和 氏
- ② 岩手県の脱炭素に向けた取組について
岩手県環境生活企画室 環境生活企画室 特命理事兼グリーン社会推進課長 千田 志保 氏
- ③ 久慈市のカーボンニュートラルに向けた取組について
久慈市長官舎地産地消推進センター推進課長 二ツ神一洋 氏
- ④ 地域に輝かせる再エネ事業について(仮題)
HSE株式会社 取締役社長 石田 桂 氏
- ⑤ 地域群を活用した本質再エネ事業の取組について
有限会社まると里村 アグロ株式会社 代表取締役 日富 和孝 氏
- ⑥ 航空レーザ計測データを活用した森林資源解析と森林出稼(オーグレスト)の創出について
有限会社株式会社 森林出稼(オーグレスト)推進部 部長/IT系推進室 岩田 彰隆 氏

会場とのディスカッション
岩手大学 環境生活企画室 専任教授 (ファシリテーター) 吉岡 正和 氏

申し込み締切 2026.1.30 (金)

お申し込み (お申し込み費は別) 岩手県ILC推進課 事務局連絡
Email AB0009@pref.iwate.jp FAX 019-629-5339

第16回グリーン ILC セミナー

(4) 外国人研究者等の受入環境整備（外国人居住環境分科会、外国人研究者等の医療分科会、教育分科会）

ア 外国人研究者等の生活環境整備

外国人研究者やその家族の居住を見据えた外国人への生活支援サービスの提供及び生活支援サービスについての調査・検討を実施

- (ア) 外国人受入れ状況調査の実施（一関市、ハロウインターナショナルスクール）
- (イ) 「いわて外国人県民相談・支援センター」における外国人相談員による外国人県民等の相談支援の実施【ふるさと振興部】
- (ウ) 外国人県民等を対象とした医療相談会の実施（11月）【ふるさと振興部】
- (エ) 医療通訳研修会の実施（11月）【ふるさと振興部】
- (オ) 多文化共生医療防災セミナーの開催（1月）【県南広域振興局】
- (カ) 多文化共生地域づくりセミナーの開催（3月）【ふるさと振興部】



11月 医療通訳研修会
（ふるさと振興部）

イ 外国人児童生徒の受入れに関する検討及び受入体制整備を促進

- (ア) 令和6年3月に岩手県教育委員会が策定した「岩手県外国人児童生徒等教育方針」に基づき、外国人研究者等の子弟を含めた外国人児童生徒等の受入体制整備を促進【県教育委員会】
- (イ) 「帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会」の開催のほか、「岩手県外国人児童生徒等教育関係者連携会議」を実施【県教育委員会】
- (ウ) 外国人児童生徒等の教育を推進するため、モデル地区を指定し、推進チームを組織するとともに、校内の教育環境の充実、支援体制の構築を支援【県教育委員会】



1月 多文化共生医療防災セミナー
（県南広域振興局）

ウ 国際学級やインターナショナルスクール設置の必要性を検討

県内に所在するインターナショナルスクール（ハロウインターナショナルスクール安比校）の外国人児童生徒の受入れ状況について視察訪問を実施

(5) 交流人口の拡大、科学技術教育水準の向上（地域資源活用分科会、教育分科会）

ア 国内外に向けた情報発信の強化

SNS・ホームページによる岩手の食や観光等の情報発信（再掲）

【海外向け】 THE KITAKAMI TIMES、X「Iwate & the ILC」

<KITAKAMI TIMES発行状況>

掲載月	タイトル	掲載月	タイトル	掲載月	タイトル
4月	水沢江刺駅の40周年記念おめでとう	10月	「Z」のストーリー	2月	岩手ワインのテロワール(自園自醸でうまれる紫波ワイン編)
5月	JR花輪線サイクルトレイン実証実験	11月	岩手ワインのテロワール(あなたと私のくずまきワイン編)	2月	やさしい日本語:多文化共生のためのツール
6月	大船渡カフェ巡り	11月	2025年のいわて銀河フェスタ:科学と天文学をみんなに楽しく	3月	スイーツ巡りー 西洋・インド・日本ー
7月	盛岡の夏「さんさ踊り」	12月	370余年前の都市計画が残る歴史ストリート	3月	岩手ワインのテロワール(ワインに選ばれた楽園・大迫のエーデルワイン編)
9月	一関市のデジタル化推進	1月	未来へ踏み出す高校生の挑戦-サイエンス&エンジニアリング・チャレンジコンテストの開催-		計14回発行

【国内向け】・X「岩手&ILC」、Facebook「岩手&ILC」

・県政テレビ番組「いわて！わんこ広報室」における情報発信（8月）

ILCの実現に向けてみんなで盛り上げよう！

～ILCの理解促進と機運醸成の取り組み～

イ 機運醸成・理解促進

これまでに県内事業者と協働して作成したILCオリジナルデザインの「南部鉄器風鈴」、「手ぬぐい」、「被災地松はがき」等を県内外のイベント等において配布

ウ 高校生を対象としたILCに関連する分野で活躍する人材育成

(ア) ILCを契機に科学に対する興味・関心の喚起・深化を図るため、県内の高校生・高専生を対象とし、次の取組を実施

- ・ KEKの研究者を講師とした「科学講演会」を实地開催し、3校に配信（6月）
- ・ 「いわての高校生サイエンス&エンジニアリングチャレンジ・コンテスト」を開催し、5校9チームが参加（12月）。優勝チームによる先端研究施設派遣研修を実施（3月）

(イ) 小中学生を対象とした理解促進の取組【県南広域振興局と連携】（再掲）
県内の小中学校において出前授業を実施（1校）



「わんこ広報室」での情報発信



12月 高校生チャレンジ・コンテスト
(アイーナ)

3 令和8年度におけるILC推進の具体的な取組内容（案）

(1) 基本方針

- 日本政府によるタイムリーな誘致判断が行われるよう、県内外の関係団体とともに、後押しとなる国民的な機運醸成を図りながら、一体となった働きかけを行う。
- 「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる「ILCプロジェクト」を推進し、ILC誘致を契機とした産業振興やまちづくりなど、ILCの実現効果を高めるよう受入準備を促進する。

➤ 実現に向けた県の取組

- ① ILCが持つ多様な価値を県内外の推進団体と共有し、超党派議員連盟や全国知事会等と連携しながら国等への働きかけを強化
- ② 国民的な機運醸成を図るため、発信力や影響力が高い層への理解促進を目的とした首都圏でのシンポジウムを開催するとともに、シンポジウムでの発表・議論内容について、各媒体を通じて多くの人に発信
- ③ 受入体制整備等の取組の推進に向けた研究者の取組支援（東北 ILC 事業推進センターとの連携）

➤ ILCプロジェクトの推進

- ① 県内企業の加速器関連分野の受注増大に向け、加速器コーディネーター等による関東、関西方面の活動を継続するとともに、引き続き、岩手 ILC 連携室・オープンラボに整備した性能評価機器を活用しながら技術支援を実施
- ② グリーン ILC に関するセミナーの開催による普及啓発に加え、企業と連携した地域内エネルギー利活用の優良事例の横展開の取組を支援
- ③ 高校生等を対象とした科学講演会や科学・工学に関するコンテスト等の実施、小中学生を対象とした出前授業の実施

R8全体スケジュール

年	2026年										2027年		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
欧州	●次期欧州素粒子物理戦略の策定										検討を継続		
日本	第1段階 再始動した国会議連と連動した政府への働きかけ 再始動した国会議連の活動、自民党政務調査会（科学技術・イノベーション戦略調査会）												
日本	第2段階 国の成長戦略・予算にILCを盛り込む活動 ●上旬:経済財政諮問会議(骨太方針の骨子案) ●下旬:骨太方針の公表 ●戦路産業クラスター計画策定(地域未来戦略) ●概算要求基本方針閣議了解 ●中旬:日本成長戦略策定 ●概算要求 ●LCWS(つくば) ●政府予算案閣議決定 ●予算成立 ●政府予算要望												
県	第3段階 国の状況を踏まえた政財界のカウンターパートや国民への展開 ●機運醸成事業① 首都圏シンポジウムの開催 ●機運醸成事業② シンポジウム内容の拡散 ●県推進本部会議 ●宇宙開発ビジネス展(大阪) ●LCWSにおける情報発信 ●真空展2026(東京) ●政府への要望 ●議連要望 関係団体県内外での各種イベントでのPR、SNS等による情報発信、欧州・国内の情報収集												
関係団体	●機運醸成事業①と連携した取組 ●県推進協 幹事会 ●東北協 幹事会 ●県推進協 講演会(役員会) ●東北協 講演会① ●LCWSにおける情報発信 ●県推進協 講演会 ●東北協 講演会② 東北ILC事業推進センター事業の推進(地形・地質調査、物流、まちづくり・受入環境整備等)												

(2) ILC実現に向けた取組

現状と課題	令和8年度の取組の方向性
<p><有識者会議に対する課題解決の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ILC テクノロジーネットワークの枠組みによる国際協働の研究開発が進む。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 政府予算に計上された将来加速器の性能向上に向けた重要要素技術開発費（7億円）を活用 ○ 国際協働による ILC 建設費用の分担などに係る国際的な議論が停滞 ○ 日本政府のタイムリーな誘致判断の後押しとなる国民的な機運の醸成を実施（R6～） <p><世界の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ CERN の次期大型加速器計画 FCC-ee を含む次期欧州素粒子物理戦略が令和8年5月に更新される予定 ○ FCC-ee の代替案として縮小版の FCC-ee が提示 ○ 米国の体制は FCC にシフト ○ 中国の円形加速器 CEPC は、次期5か年計画への提案は見送り <p><国内の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 内閣府と文部科学省による「将来の高性能加速器に関する連絡会」が設置（R6.2） ○ 超党派国会議連の新役員を選任（会長：大野敬太郎衆議院議員）（R7.11） 	<p>○ 国等への働きかけ</p> <p>ILCの実現に向けて、イノベーションの創出と産業の発展に必要な加速器関連産業の振興について、6月の政府予算要望をはじめ、超党派国会議員連盟や県内外の推進団体、全国知事会等とも連携しながら、政府の掲げる17の戦略分野と関連づけた国や政府与党等に対する働きかけを年度半ばまでに実施</p> <p>【要望項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係省庁が連携して取り組む国家プロジェクトとして位置づけた政府全体での誘致推進 ・ 日本政府が主導しての国際的な議論の推進 ・ 国際協働による加速器の研究開発に資する予算措置 ・ 先端加速器関連産業の振興（国施策への盛り込み） <p>○ 国民的な機運の醸成</p> <p>大型加速器計画をめぐる世界情勢に鑑み、1日も早い日本政府の誘致判断を促すため、首都圏で複数の有識者を交えたシンポジウムを開催するなど、引き続き様々な機会を活用した取組を実施</p> <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及啓発の推進（講演会・研修会等の開催） ・ イベント等への出展による PR（宇宙開発ビジネス展、真空展 2026 ほか） ・ 国内外に向けた情報発信（X、THE KITAKAMI TIMES 等） ・ 岩手 ILC 連携室・オープンラボの見学受入

現状と課題	令和8年度の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 政府が日本成長戦略における17の戦略分野、国家戦略技術を指定 ○ 地域未来戦略を策定(～R8.夏) ○ 建設候補地として必要な受入れ環境の整備を継続 <p><課題></p> <p>有識者会議で指摘のあった課題の一部が着実に進んでいる一方で、欧州でのFCC-eeに関する議論が加速しており、一刻も早い政府の関心表明が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究者の取組への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北ILC事業推進センター事業として研究者が推進する取組を支援し、ILC受入に必要な環境の整備を推進 ・ LCWS2026(つくば)等の機会を捉えた建設候補地における取組の発信 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【東北 ILC 事業推進センター令和8年度事業(予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ 地形・地質調査、施設配置 <li style="width: 50%;">・ まちづくり、受入環境整備 <li style="width: 50%;">・ 地域住民の理解促進活動 <li style="width: 50%;">・ 加速器関連産業の振興方策 <li style="width: 50%;">・ ILC立地に係る自然環境調査 <li style="width: 50%;">・ グリーンILC など </div>

(3) ILC プロジェクトの推進

- ILC の実現及び ILC の多様な効果の地域への波及に向け、いわて県民計画（2019～2028）に掲げる ILC プロジェクトを全庁挙げて推進するため、岩手県 ILC 推進本部を設置し、部局横断の取組を推進
- ILC プロジェクトを推進する方向を示す戦略として策定した「ILC による地域振興ビジョン」に基づき、受入準備、関連産業の振興や人材育成等の取組を推進

① 国際研究拠点の形成支援と研究開発を目指す人材の育成

〔まちづくり・インフラ整備分科会、産業振興分科会〕 ふる・環境・商工・県土・盛岡局・県南局・県警・ILC

現状と課題	令和8年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりのモデルケース」の調査研究を実施 ・加速器関連産業技術者を育成 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係市町における ILC を契機としたまちづくりの支援 ・ILC に関わる幅広い分野で活躍できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ILC 誘致を契機にした居住や交通、エネルギー等に関する地域の将来まちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学及び東北 ILC 事業推進センターによる共同研究「ILC 誘致を契機にしたまちづくり（ILC まちづくり）の研究」に協力し、これらがもたらす社会的な貢献度をアピールするなど、市町村のまちづくりに生かす取組を推進〔東北 ILC 事業推進センターが行う事業の支援〕 ➤ 加速器関連産業など県内企業の技術力向上への支援を強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ いわて加速器関連産業研究会を通じた技術セミナーを実施 	<p>ILC 推進事業費 (ILC)</p>

② イノベーションの創出 [産業振興分科会] ふる・商工・盛岡局・県南局・ILC

現状と課題	令和8年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の加速器関連産業への参入に向けた商談取引支援 産学が連携した共同研究の実施等について意見交換 企業技術者を対象とした技術支援 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業集積に向けた取組 県内ものづくり企業の参入と受注につながるオープンイノベーションネットワークの構築 加速器関連先端技術を担う専門人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 企業の技術力向上支援及び加速器関連産業への参入支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> いわて加速器関連産業研究会を通じた技術セミナーを実施（再掲） 国内加速器研究施設の高度化による受注や、加速器と共通する技術を要する産業分野（医療、フュージョンエネルギー等）への参入を見据え、専門知識のある加速器コーディネーターを配置し、関東、関西方面への企業訪問や研究機関等とのマッチング等を継続 ➤ いわて加速器関連産業研究会を軸にした、大学、公設試験研究機関等との連携の強化 ➤ 加速器関連産業など県内企業の技術力向上への支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> 大手企業や研究機関との受注促進に向けた講習会を開催 岩手 ILC 連携室・オープンラボに整備した機器を活用し、研究者と企業の共同開発、技術者向けの技術指導、国内外研究者との交流等を実施 	<p>ILC 推進事業費(ILC)</p> <p>同上</p>

③ グリーン ILC（環境、エネルギー）によるエコ社会の実現 [グリーン ILC 分科会] 環境・農水・県土・県南局・ILC

現状と課題	令和8年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ILC 排熱の有効活用に向けた、「吸着材蓄熱システム ハスクレイ」による熱輸送システムの共同研究・実証実験を支援 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ILC の排熱を地域経済の活性化や環境への配慮等につなげる方策の検討、実証及び成果の共有 グリーン ILC の理念・取組の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 熱輸送システムの実用化に向けた共同研究の支援 <ul style="list-style-type: none"> 「吸着材蓄熱システム ハスクレイ」による排熱輸送の産業化を見据え、地域内循環利用に向けた検討を実施 企業と連携した地域内エネルギー利活用の優良事例の横展開 ➤ グリーン ILC の普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> グリーン ILC セミナーの開催や、グリーン ILC 啓発用リーフレットを活用した P R を実施 	<p>ILC 推進事業費(ILC)</p> <p>同上</p>

④ 国際性豊かで便利な暮らしやすいコミュニティの形成 [居住環境、医療、教育分科会] 政企・ふる・保福・県南局・医療局・教委・ILC

現状と課題	令和8年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外研究者等の生活支援のための関係自治体との連携体制の構築検討 海外研究者子弟の既存校等での受入れ検討 海外研究者等の医療に関する支援の取りまとめ及び課題の整理・検討 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外研究者・家族及び地域住民が暮らしやすい社会の実現と多文化共生コミュニティの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外研究者の生活支援のための行政手続等、具体的支援内容を検討 <ul style="list-style-type: none"> 行政手続や生活支援に関する海外研究者が必要とする情報等について調査・検討を実施 多文化共生を担う人材育成や地域づくりに向けた研修会等の実施 県民を対象とした多様な文化への理解促進などを目的としたイベント等の開催 ➤ 外国人児童生徒の受入れに関する検討及び受入態勢整備を促進 <ul style="list-style-type: none"> 「岩手県外国人児童生徒等教育方針」に基づき、外国人児童生徒等の教育環境の充実のための体制整備や、日本語指導の充実に係る取組を推進 ➤ 海外研究者等が医療機関受診の際に必要なとする具体的支援について、関係団体と検討 <ul style="list-style-type: none"> 外国人を対象とした医療相談会や、医療通訳研修会への支援等の実施 	<p>ILC 推進事業費 (ILC) 地域多文化共生推進費(ふるさと) 地域経営推進費 (沿岸局、県南局) 指導運営費(教委)</p> <p>地域多文化共生推進費(ふるさと)</p>

⑤ ILC を活用した交流人口の拡大、科学技術教育水準の向上 [地域資源活用、教育分科会] ふる・農水・商工・県南局・教委・ILC

現状と課題	令和8年度の具体的取組内容	主な関連事業名
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ILC 関連情報や県内の食・観光情報の海外向け発信 小中学校での出前授業、高校生を対象とした講演会等を通じた科学への関心の喚起 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外向け情報発信の強化 科学に興味を持つ児童生徒の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外向け情報発信 <ul style="list-style-type: none"> THE KITAKAMI TIMES や SNS による、ILC に関する情報及び岩手の魅力（食や観光、岩手での生活）の発信 ➤ 機運醸成、理解増進 <ul style="list-style-type: none"> 首都圏でのシンポジウムの開催 県内外で開催される各種イベントへのブース出展 ➤ 県内の小中学生・高校生を対象に、ILC を含む科学への関心を喚起する取組を強化 <ul style="list-style-type: none"> 高校生・高専生を対象とした科学講演会、小中学生を対象とした出前授業の実施 科学・工学に関するコンテストの開催 ILC に関係する専門家などの派遣を実施 理数系人材等の輩出を加速するため、探究的な学習を STEAM の視点から深める取組を推進 	<p>ILC 推進事業費 (ILC)</p> <p>同上</p> <p>ILC 推進事業費 (ILC) 【県南局と連携】</p> <p>探究・STEAM 教育推進事業費(教委)</p>

関係団体による講演会・セミナー等一覧（令和7年度）

時期	主催	名称（場所）
5月	登米市 I L C 推進協議会	登米市 I L C 推進協議会総会における講演（宮城県）
	（一社）日本真空工業会	創立 40 周年記念講演会（盛岡市）
6月	北上市加速器関連産業参入促進協議会	北上市加速器関連産業参入促進協議会総会における講演（北上市）
	東北 I L C 推進協議会	I L C 講演会（宮城県）
7月	奥州市 I L C 推進連絡協議会	奥州市 I L C 推進連絡協議会総会における講演（奥州市）
	岩手県国際リニアコライダー推進協議会	I L C 公開講演会（盛岡市）
8月	東北 I L C 事業推進センター	I L C 計画現状説明会（大船渡市）
	岩手県議会・宮城県議会国際リニアコライダー建設実現議員連盟	I L C 講演会（盛岡市）
9月	東北 I L C 推進協議会	I L C 講演会（宮城県）
	東北・北海道表面処理工業組合	東北・北海道地区ブロック会議講演会
10月	LCWS2025	LCWS2025（スペイン・バルセロナ）
12月	岩手県国際リニアコライダー推進協議会	I L C 公開講演会（盛岡市）
	土木合同セミナー実行委員会	第 20 回土木セミナー
1月	岩手県町村会	政調懇談会

ILC実現に向けた国民的な機運醸成事業

① 首都圏シンポジウムの開催

- ターゲット
 - ・ 日本成長戦略及び科学技術政策関係者
 - ・ 経済界の中核を担う関係者
- 内容
 - ・ 複数の有識者による講演
 - ・ ディスカッション 等

⇒ ILCの科学的意義や国際動向、産業への波及効果について理解促進を図るとともに、ILCに関する議論の機運醸成につなげる

② メディアへの展開

シンポジウムでの発表・議論内容について、各媒体を通じてより多くの人に発信

We support the **ilc**



加速器産業の取組 いわて加速器関連産業研究会



県内企業の技術力向上、加速器関連産業への参入を図るため、加速器関連産業に関わる産学官の交流・連携機会を創出するほか、取引拡大支援や研究開発支援の取組を実施

○ いわて加速器関連産業研究会の業務内容

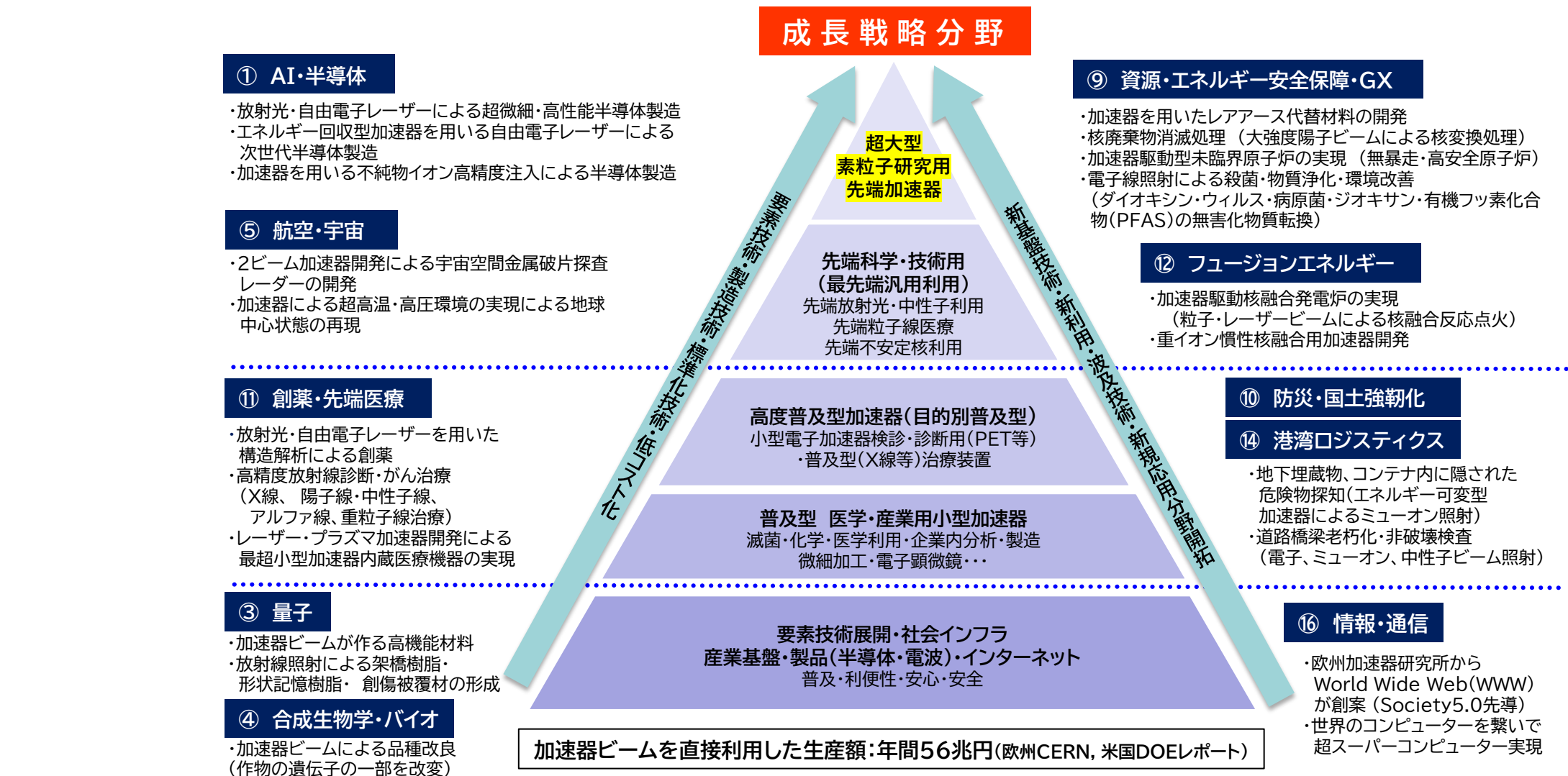
- ・ ILC技術セミナー（国の17の戦略分野と連動したテーマ（例：フュージョンエネルギー）で開催）
- ・ 技術チャレンジ
- ・ 研究開発支援
- ・ 学会等を通じた企業のマッチング支援



ILC技術セミナー

長期にわたる分野横断的な投資の一つの例：先端加速器による新しい社会と産業基盤の形成

AI・データ社会の進展、エネルギー・医療・材料分野の高度化が進む中で、ナノスケール材料評価や精密加工を支える先端加工・計測技術の重要性が高まっています。こうした分野を支える中核技術が電子線、X線、中性子、ミュオンなどを用いた量子ビーム技術であり、その高度化には**先端加速器**技術が不可欠です。



25	国際理解教育 帰国・外国人児童生徒等教育関係事業	R8・計画
----	-------------------------------------	-------

1 趣旨

伝統と文化を尊重し、郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養い、国際社会において主体的に行動できる人材を育成する。また、日本社会の多様性・包摂性を高めるとともに、共生社会の担い手となる外国につながる児童生徒に対する教育の充実を図る。

2 沿革

昭和49年	ユネスコ「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」（国際理解教育の考え方の総括的まとめを提示）
昭和60～62年度	臨時教育審議会「教育改革に関する答申」第1次～第4次（教育改革の柱の一つに「国際化に対応した教育の推進」を取り上げる）
平成8年度	中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」第1次（「国際化と教育」の柱の一つに「国際理解教育の充実」について記載）
平成10年	学習指導要領の改訂により、総合的な学習の時間において「国際理解」を明示
平成20年度	文部科学省が国際理解教育実践事例集（中・高等学校編）を作成
平成22年度	岩手県外国人児童生徒教育関係者研修会を開始
平成23年度	学習指導要領の改訂により小学校外国語活動が小学校高学年において全面实施
平成25年度	文部科学省が国際理解教育実践事例集（小学校編）を作成
平成26年度	外国人児童生徒等に対する日本語指導について「特別の教育課程」の編成・実施に関する省令施行 国際協力機構（JICA）の教員海外研修へ指導主事派遣
平成27年度	希望郷いわてグローバル人材育成事業開始（イーハトーブ・イングリッシュ・キャンプ等）
平成30年度	いわての地域国際化人材育成事業開始 出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部改正
令和元年度	日本語教育の推進に関する法律施行
令和2年度	日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針閣議決定
令和3年度	外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針文部科学省策定 中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～項目の一つに「増加する外国人児童生徒等への教育の在り方」位置づけ 「岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針」策定
令和5年度	岩手県外国人児童生徒等教育方針策定

3 概要

- (1) 各教科、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動等に位置付けた取組の充実を図ること。
- (2) 帰国・外国人児童生徒等への支援の充実とともに、共生の意識を育む教育を推進すること。
 - 帰国・外国人児童生徒教育関係者研修会 11月24日（火） 総合教育センター
 - 日本語指導指導者養成研修（教職員支援機構）への教員等派遣（9月下旬～10月上旬）
 - 外国人児童生徒等教育推進体制モデル指定研究事業（R7～R8 八幡平市立松野小学校）
 - 帰国・外国人児童生徒等教育関係者連携会議
- (3) 社会全体のグローバル化が急速に進展する状況下において、語学力の向上とともに国際理解を深め、国際感覚を養うこと。
 - いわての地域国際化人材育成事業（継続）
- (4) 岩手が誇る伝統工芸や震災復興、海外との関わりなど、地域の特性を活かした題材（教材）の活用を推進すること。

4 重点

- (1) 持続可能な社会の担い手としての資質・能力を目指した指導の充実
 - ア 実社会における国際理解及び多文化共生の在り方についての理解を深め、国際社会に参画していこうとする意欲を育むことのできる指導の充実
 - イ 地域の特色や資源を生かした活動、地域人材（ALT等を含む）の活用
- (2) 帰国・外国人児童生徒等への日本語指導の適切な指導・支援の充実を図る
 - ア 岩手県外国人児童生徒等教育方針に基づき、基本的な考え（①外国人等子供の就学促進、②学校の受入れ体制の整備、③日本語指導・教科指導、生徒指導、進路指導等の充実）を理解し、外国につながる児童生徒等が、適切な教育課程の編成・推進のもと、児童生徒個々の将来の夢の実現に向けて、必要な資質・能力の育成を実現できる体制を構築する。
 - イ DLA等の評価ツールを活用し、児童生徒の日本語力の実態把握を定期的に行うとともに、校内で作成した個別の指導計画を基に適切な指導や支援の在り方を検討する。

沿岸圏域多様な人材交流推進事業

令和8年度沿岸広域振興局地域経営推進費(県事業)

住民の多文化共生に係る理解促進・意識啓発を図るとともに、地域コミュニティの活性化や若者・女性などの活躍を推進するため、管内中高生による海外派遣体験談の発表や釜石市国際外語大学の生徒等による事例発表などのイベントを開催

○ 背景

- ・ 労働者を中心に在留外国人数が増加傾向
- ・ 令和6年10月には釜石市国際外語大学日本語学科が開設

○ 事業のポイント

- ・ ILC実現による海外研究者やその家族との交流も見据え、地域での多様な文化への理解を醸成し、多様な方と共に生活できる地域を形成する。
- ・ 県政150周年記念関連イベントとして位置付ける。



多文化共生・やさしい日本語講座
(令和7年度開催)